

福島県総合計画（2022-2030）

＜基本目標＞

やさしさ、すこやかさ、
おいしさあふれるふくしまを共に創り、つなぐ

「ひと」分野

政策3「福島ならではの」教育の充実

第7次福島県総合教育計画 <「学びの変革」の推進に向けて>
(2023-2030)

＜福島県で育成したい人間像＞

急激な社会の変化の中で、自分の人生を切り拓くたくましさを持ち、
多様な個性をいかし、対話と協働を通して、
社会や地域を創造することができる人

＜学びの方向性＞ 「福島ならではの」教育の充実

- 「福島らしさ」をいかした多様性を力に変える教育
- 福島で学び、福島に誇りを持つことができる「福島を生きる」教育

事業を必要とする背景（現状と課題）

- ・ 約2万6千人の避難者(2024.2現在)、住民帰還、被災者の生活再建
- ・ 避難地域をはじめとする急激な児童生徒の減少
- ・ 地域コミュニティの希薄化や分断
- ・ 震災を知らない子どもたちにも投げかけられる風評と震災の記憶の風化
- ・ 廃炉や処理水等、世界に類をみない課題への対応

施策4 福島で学び、福島に誇りを持つことができる「福島を生きる」教育を推進する

「ふくしまの未来」へつなぐ体験応援事業

【事業概要】

東日本大震災から13年が経過するが、原発事故による様々な風評被害や震災を知らない世代の増加と記憶の風化は大きな問題である。このような状況下において、ふるさとである福島の現状を正しく理解し、復興の当事者として復興に寄与する新生ふくしまを担うたくましい子どもの育成が重要である。

本事業『「ふくしまの未来」をつなぐ体験活動応援事業』は、震災後のふるさと福島を包括的に学び、主体的に考え、行動し、表現する社会体験活動をする子どもたちを応援する。

◆事業1：元気を届ける交流・体験事業

避難者や被災者との交流を通して、子どもたちが元気を創出する活動

◆事業2：今を知り思いを伝える事業

- ① ふくしまの「今を知る」活動
- ② 復興への「思いを伝える」活動
 - ・ 震災関連施設での学習
 - ・ 地域の復興を考え、県内外へ発信する活動
 - ・ 復興へ向けた取組や現状、ふくしまの元気や特色の発信



R5「ふくしまの未来」へつなぐ体験応援事業 児童生徒アンケートより (n=741)

(5段階評価)	事前	事後
自分から進んで何でもやる	3.4	⇒ 3.9
自分の課題を見つけることができる	3.5	⇒ 4.0
人の役に立つことが好きだ	3.7	⇒ 4.1
自分のことが好きだ	3.2	⇒ 3.6
今住んでいるまちが好きだ	3.8	⇒ 4.3
今住んでいるまちをもっとよくしたい	3.8	⇒ 4.3

R5 事業実績

＜実施団体＞

事業1：2団体

事業2：27団体



福島こどものみらい映画祭実行委員会



あいでみ協議会



福島県立会津学鳳高等学校 SSH部



福島県立安積高等学校 物理部



一般社団法人 未来の準備室

本事業を経験した先輩方の姿から

- 福島のために何ができるか考え、東京都職員となり、福島県に出向し、避難者支援を担当し、頑張っている。
- 本事業を通じて、地元地域のよさを再発見し、お世話になったふるさとのために貢献したいという思いから、地元の町職員を目指している。
- 他県の方々と交流したことで新たな知識を得て、多角的に物事を考えることの重要性に気づくことができた。そして、福島県内のまちづくりや社会計画に興味を持ち、県内の大学への進学を決意した。
- 本事業を通し、国内とドイツのエネルギー問題について学び、将来エネルギー関連の研究者を目指したいとの思いを持つようになった生徒が、大学進学に向けて、学業に邁進している。
- 本事業から、教育に関心が高まり、福島県内の幼稚園教諭、小学校教諭、養護教諭として、故郷のために頑張っている。